

スケトウダラ太平洋系群に久しぶりに高豊度年級群が加入か !?

〇はじめに

道南太平洋海域では毎年10月にすけとうだら固定式刺し網漁業が始まり、各漁港では夜明け前から水揚げと網外し作業で賑わいますが、近年では漁獲量が減少し、以前のような賑やかさが影を潜めています。この海域に來遊するスケトウダラ資源は、数年から10年程度の間隔で高豊度な年級群（生まれ群）が発生し、それにあわせて漁獲量が増減する特徴がありましたが、2010年級群以降は高豊度な年級群が発生していないため、刺し網による漁獲量は低い水準で推移しています（図1）。この海域で漁獲されるスケトウダラは、噴火湾の湾口域の産卵場に集群する4歳以上の成魚が対象となっています。函館水産試験場では、これまで産卵群の來遊状況を調べるために、漁期前の8~9月（1次調査）、漁期中の11月（2次調査）および1月（3次調査）に資源調査を実施してきました。この調査から、2016年級群（2016年生まれ）は、高豊度な年級群である可能性が高いと推測されたので、その結果について紹介します。

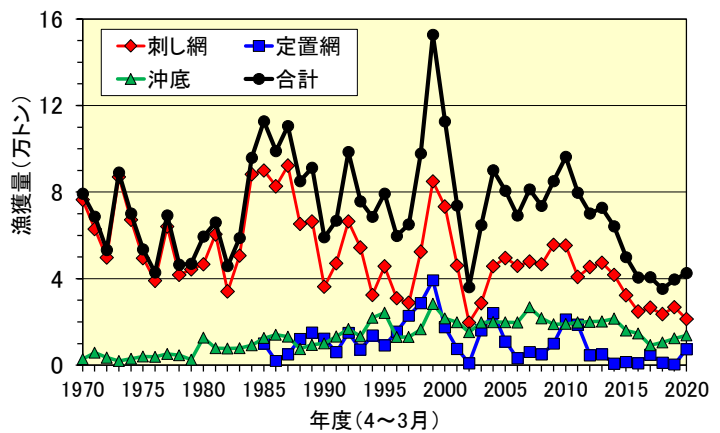


図1 道南太平洋海域におけるスケトウダラ漁獲量

〇道南太平洋海域スケトウダラ産卵來遊群分布調査結果

函館水産試験場調査船金星丸（151トン）を用いて、図2の海域において、計量魚群探知機を用いた魚群の分布調査、トロールによる漁獲調査、海洋観測調査を行いました。その結果、2020年度の1次調査の魚群反応量は低位で推移しましたが、2次および3次調査では、2018、2019年度と比べ、やや増加しました（図3）。これは、2次調査以降に主群が來遊したためと考えられます。次に、トロール調査による年齢組成をみると（図4）、2018年度の3次調査では2歳（図4の右列上段の青色棒）が、2019年度では2次および3次調査で3歳（図4の中央および右列中段の青色棒）が、2020年度ではすべての調査で4歳（図4の全列下段の青色棒）が、最も頻度が高くなっており、これらはすべて2016年級群でした。

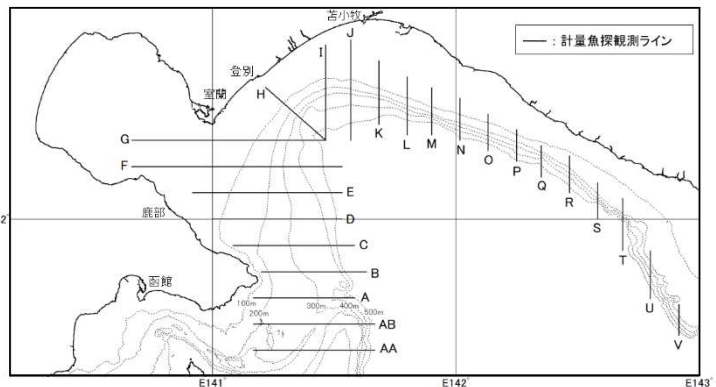


図2 スケトウダラ調査海域図

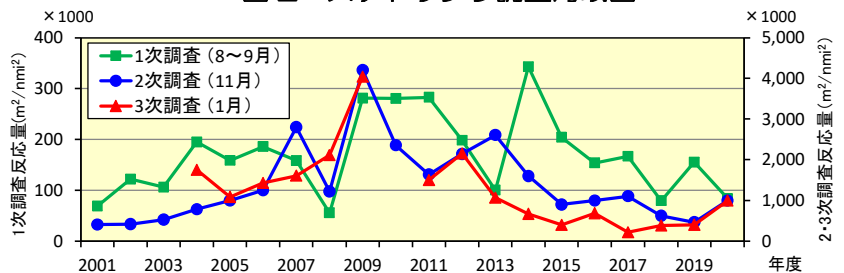


図3 スケトウダラ調査時期別の反応量

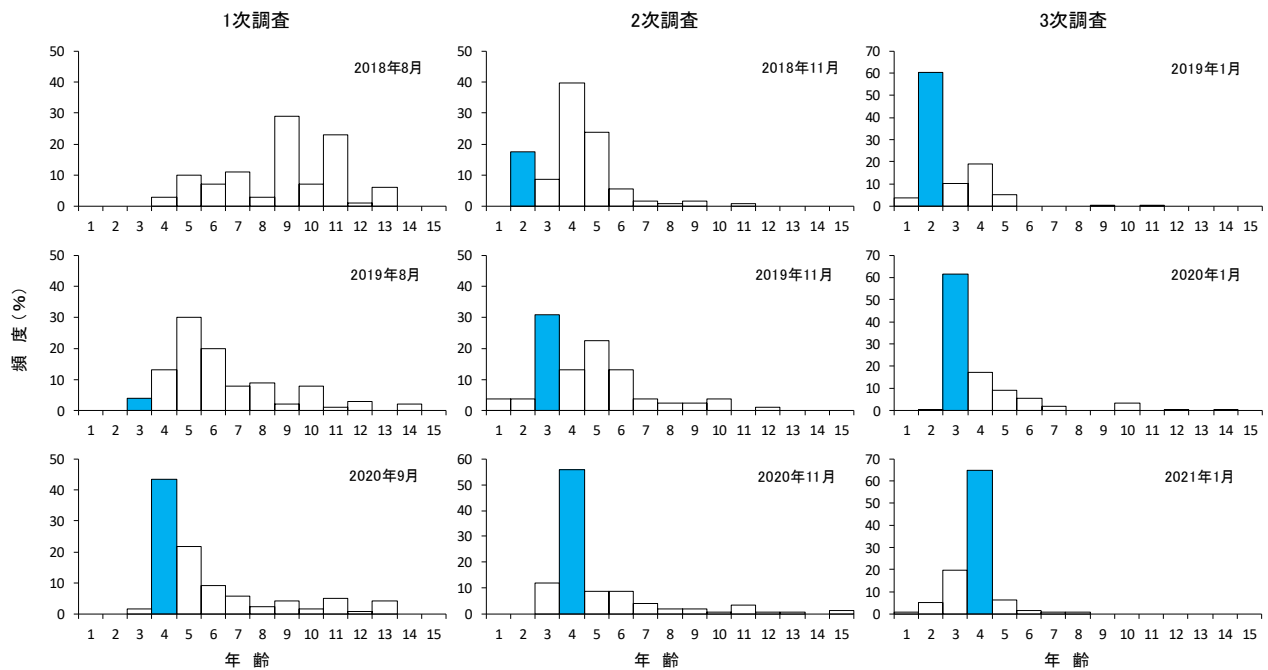


図4 トロールにより漁獲されたスケトウダラの年齢組成（青色のバーが2016年級群）
（上段：2018年度、中段：2019年度、下段：2020年度）

○2020年度スケトウダラ漁期における漁獲物の年齢組成

水産試験場では、道南太平洋海域で行われている刺し網漁業や沖底漁業により漁獲されたスケトウダラ漁獲物を定期的に調査し、年齢組成等を調べています。その結果に基づいて年齢別漁獲尾数を推定していますが、その推移をみると（図5）、3歳でも漁獲がみられる年度もありますが、4歳から漁獲尾数が多くなり、その翌年の5歳ではさらに漁獲尾数が増える傾向がみられます。2020年度の調査では、4歳（2016年級群）の漁獲尾数は全漁獲物尾数の約60%を占めており、高豊度年級群であった2007年級群（2011年度）や2009年級群（2013年度）と同程度となっていました（図5）。今後の動向を占うと、4歳から5歳にかけては体重が増加することから、2021年度も2016年級群が5歳として漁獲物の主体となり、漁獲量は2020年度よりも増加することが期待されます。

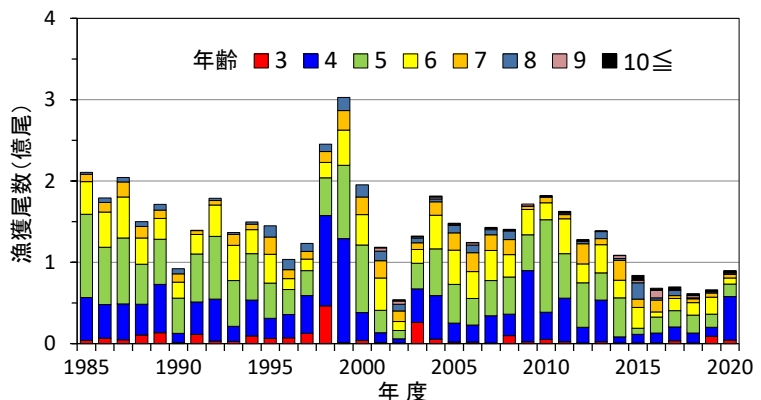


図5 スケトウダラ年齢別漁獲尾数の推移

○おわりに

2010年級群以降、低豊度の加入が続き、漁獲量も低迷していましたが、2020年度には久しぶりに高豊度年級群と考えられる2016年級群が加入し、漁獲量も好転する兆しがみえてきました。今回、2次および3次調査の分析結果から漁獲対象となる前の2~3歳の段階で高豊度年級群になるかどうか予測できる可能性があることがわかってきました。今年度も水産試験場では3回の資源調査を行い、結果は道南海域スケトウダラニュースとして順次配信する予定ですので、最新の情報はそちらをご参照ください。

（2021年8月20日 北海道立総合研究機構 函館水産試験場 調査研究部 武藤卓志）